古宇田藍・佐々木剛，2015，「中学校「総合的な学習の時間」における学習意欲向上効果のある水圏環境教育プログラムの開発」，水圏環境教育研究誌，8(1):1-6.

中学校「総合的な学習の時間」における学習意欲向上効果のある水圏環境教育プログラムの開発

古宇田藍（東京海洋大学），佐々木剛（東京海洋大学大学院）

【要約】

東京都港区立中学校の「総合的な学習の時間」において東京海洋大学と連携して行われている水圏環境教育プログラム「運河学習」を実施し、その中で本単元の目標である主体的な活動や学習意欲の向上に対する効果について検討を行った。目標を、水圏環境教育と総合的な学習の時間の両視点から、「生徒一人一人が水圏環境に対する関心・意欲・態度・意識を高め，運河における自主的な観察活動や，家庭での自主的な学習・環境への取り組み等の行動に移せるようになること」とし、その中でとりわけ学習に対する意欲・関心を高めることを目指した。

全 3 回の授業プログラムにおいて、学び合いの行える環境作りをし、各回の授業構成には一人一人にあった学習が行えるよう、ラーニングサイクル理論を用いた。また、水圏環境の観察の際には屋外での活動や、生きた魚や運河のヘドロなどを実際に用いる等の工夫を行い、生徒がより学習意欲が高められる授業プログラムの実践を目指した。

【キーワード】

水圏環境教育　総合的な学習の時間　運河学習　学習意欲

Ⅰ　はじめに

水圏環境教育は、「環境教育」として、また科学的思考力を高める教育として有効であることが認められている[1)]。その中で、東京海洋大学では 2007 年度より港区立中学校と連携して、身近な水圏環境を観察し、その諸問題に関して人々とともに考え、水圏環境リテラシー基本原則を理解して､自ら責任ある決定や行動をとり、それらをより多くの人にわかりやすく伝えることのできる人材の育成を目的とした[2]「水圏環境教育プログラム」として、「運河学習」を行っている。この実践の中でも、生徒たちの科学的思考力の高まりがみられたことが認められている[3]。しかし、学び合いや屋外での体験活動等が生徒に与える学習意欲の高まりの効果については十分な研究がなされてこなかった。

そこで、本研究では「運河学習」を通して、生徒に対して授業後に行った事後アンケートや活動中のワークシート等への記述分析をもとに、生徒の学習意欲がどのような影響をうけて高まっていったのかを明らかにするため、学び合いや屋外での体験活動をとりいれた水圏環境教育プログラムを実施した。

Ⅱプログラムの内容（材料と方法）

（1）水圏環境教育とは

「水圏環境教育」とは，海や川などの水圏における教育活動のことを指しており，これは「身近な水圏環境を科学的に理解し，水圏環境に関する諸問題について人々とともに考え，総合的知識である水圏環境リテラシーを理解し，広い見識に基づいた責任ある決定や行動をとり，それらをより多くの人々にわかりやすく伝えることができる」人材を育成することを目標としたものである[4)]。「水圏環境リテラシー」とは，水圏環境に関する総合的な知識を活用する能力のことである。水圏環境は，地球に存在するあらゆる生物をつなげるものであり，私たち人類にとってもかけがえのない環境である。よって，この能力を身に付け行動する人材を育成することで，現代の水圏環境の諸問題の解決につなげ

全文PDFは　https://drive.google.com/file/d/10Es5kZ7GVvj9ZTfRjKJHQGBjvMQqEdFR/view?usp=sharingpdf（要パスワード）